

もしもの時の

救急医療を考えましょう



【問い合わせ】

- 伊賀消防署管理課
☎ 24-9120 FAX 24-9111 ✉ kanri-fd@city.iga.lg.jp
- 医療福祉政策課
☎ 22-9705 FAX 22-9673 ✉ iryoufukushi@city.iga.lg.jp

9月9日を含む1週間は「救急医療週間」です。

救急医療と救急業務に対する正しい理解と認識を深めるとともに、救急医療関係者の意識を高めるため、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間（今年は9月5日(日)～11日(土)を「救急医療週間」と定めています。

これをきっかけに、救急医療や119番通報などの緊急時の対応を考えてみましょう。

◆AEDはためらわずに活用しましょう

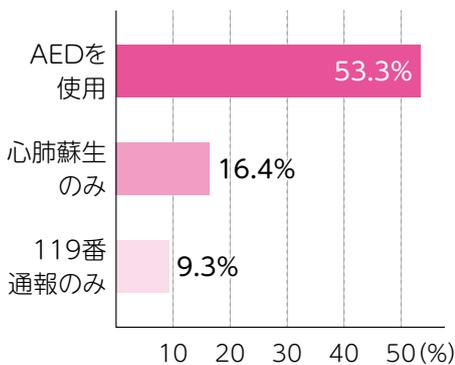
心臓が突然止まる原因のひとつは、心臓の筋肉が細かく震える「心室細動」です。この場合、心臓に電気ショックを与え、心臓の震えを取り除くことが必要です。

AED（自動体外式除細動器）は、この電気ショックを行う機器です。平成16年から一般にAEDの使用が認められ、このことにより、早急に適切な治療を受けることができた人の数は年々増加しています。

AEDを正しく使用した場合、1カ月後の生存率は53.3%で、これは119番通報のみを行った場合の9.3%と比べると約5.7倍となっています。

ところが、心停止を目撃された人のうち、実際にAEDが使用されるのは全体の4.7%に留まっています。

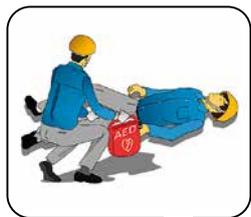
1カ月後の生存率



その場にいるあなたに知識がなければ、AEDが近くにあっても活用することができません。命を救う場合に遭遇したとき、あなたはためらわずに行動を起こすことができますか。その時に備えて、あなたにもできる救急救命を学びましょう。

◆応急手当講習会でAEDの使い方を学びませんか

AEDの取り扱い方法について、応急手当講習会を行っています。PTAや各種団体などで、希望がありましたら、お問い合わせください。



◆AED設置場所

現在、市ホームページで、AEDを設置している施設として、322箇所を公開しています。

地区別の設置場所は市ホームページに掲載しています。

また、AEDを設置している店舗や事業所などで、市ホームページへの掲載にご協力いただける場合はご連絡ください。



◆救急車を適正に利用しましょう

近年、全国的に救急車の出動件数・搬送人員はともに増えていますが、救急搬送の半数以上が入院の必要のない軽症者です。なかには「交通手段がない」「ごこの病院に行けばよいかわからない」などの理由で救急要請する場合があります。

通常119番を受けると現場から一番近い救急車が出動しますが、緊急性のない救急要請を含めた出動が増えることにより、緊急に救急車が必要な事故が発生した場合、遠くの救急車が出動することになります。その結果、到着が遅れ、救える命が救えなくなるおそれがあります。

一人でも多くの命を救うため、救急車の適正利用にご協力をお願いします。

しかし、なかには重大な病気やけがの可能性もあるため、救急車を呼ぶかどうか迷ったときは下の表を参考にしてください。



次のような症状のときは、ためらわずに救急車を呼んでください。

	大人	小児(15歳未満)
頭	<ul style="list-style-type: none"> ●突然の激しい頭痛 ●突然の高熱 ●支えなしで立てないくらいふらつく 	<ul style="list-style-type: none"> ●頭を痛がってけいれんがある ●頭を強くぶつけて出血が止まらない、意識がない、けいれんがある
顔	<ul style="list-style-type: none"> ●顔半分が動きにくい ●口や顔の片方がゆがむ ●ろれつがまわりにくい ●ものが突然二重に見える 	<ul style="list-style-type: none"> ●くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い 
胸や背中	<ul style="list-style-type: none"> ●突然の胸痛 ●急な息切れ、呼吸困難 ●痛む場所が移動する 	<ul style="list-style-type: none"> ●激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い
腹	<ul style="list-style-type: none"> ●突然の激しい腹痛 ●持続する激しい腹痛 ●吐血や下血がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●激しい下痢や嘔吐で水分が取れず、食欲がなく、意識がはっきりしない ●激しいおなかの痛みで苦しがり嘔吐がとまらない
手足	<ul style="list-style-type: none"> ●突然のしびれ ●突然片方の腕や足に力が入らなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ●手足が硬直している 
意識障害	●返事がない、またはもうろうとしている	
けいれん	●けいれんが止まらない、止まっても意識が戻らない	
じんましん	●虫に刺されたり、何かを食べて全身にじんましんが出た	
けが・やけど	<ul style="list-style-type: none"> ●大量の出血を伴う外傷 ●広範囲のやけど、痛みひどいやけど 	
飲み込み	<ul style="list-style-type: none"> ●食べ物をのどにつまらせて呼吸が苦しい ●何かを飲み込んで意識がない 	
事故	●交通事故、おぼれた、高所からの転落など	

◆電話相談窓口をご利用ください

救急車を呼ぶかどうか迷う場合は、次の電話相談窓口へ。

○伊賀市救急・健康相談ダイヤル24
☎0120・4199・22
(24時間年中無休)

病気やけがなどで救急車を呼ぶか迷っているときの相談をはじめ、心と体のさまざまな相談に看護師などの専門職が、24時間体制で応じます。

○みえ子ども医療ダイヤル
☎#8000
(毎日 午後7時30分～翌朝8時)

子どもの急な病気や事故、薬に関することについて、医療関係の専門相談員が相談に応じます。

※ダイヤル式・光電話・IP電話などをご利用でつながらない場合
☎059・232・9955
☎059・229・1199

○救急医療情報センターコールセンター
☎059・229・1199
(24時間年中無休)

救急車を呼ぶほどでもないが、けがや急病でどうしてもすぐに診察を受けたい場合に、受診可能な医療機関を案内します。

※案内を受けた医療機関に必ず電話をしてから受診してください。

※コールセンターに電話が繋がりにくい場合は、「医療ネットみえ」のホームページをご利用ください。

○医療ネットみえ

<http://www.qipref.mie.lg.jp/>

